

会 議 結 果 報 告 書

令和 6 年 11 月 12 日

会 議 の 名 称	令和 6 年度 第 1 回舞鶴市上下水道事業審議会		
種 別	☒ 附 属 機 関 ☐ 懇 話 会 等		
開 催 日 時	令和 6 年 10 月 29 日（火） 13 時 30 分 ～15 時 30 分		
開 催 場 所	大会議室		
出 席 者	委員 6 名 事務局 14 名		
議 題	(1) 水道事業の課題について (2) 下水道事業の課題について		
公 開 の 区 分	☒ 公 開		
	☐ 部分公開	[理由]	
傍 聴 者 数	0 名		
審 議 結 果 及 主 な 意 見 等	各議題について事務局から説明及び質疑応答 詳細は議事概要のとおり		
会議録の作成様式	☐ 詳 細 ☒ 要 約		
備 考			

担 当 課	舞鶴市上下水道部経営企画課 TEL (0773)62-1633
-------	------------------------------------

令和6年度第1回舞鶴市上下水道事業審議会（概要）

日 時： 令和6年10月29日（火） 13時30分～15時30分

場 所： 大会議室（舞鶴市役所 別館6階）

【出席者】

審議会委員 西垣委員（会長）、嵯峨根委員（副会長）、加登委員、河原田委員

田中委員、林田委員

（欠席：佐藤委員、和田委員）

事務局 田畑上下水道部長、中地上下水道部次長

経営企画課 岡野課長、河田係長、池嶋係長、馬場主任

高橋主査、多田主査

水道整備課 山崎課長、田岡主幹

下水道整備課 上ノ山課長、瀬野主幹

浸水対策課 江上課長、井上主幹

傍聴者 なし

《報告事項》

＜事務局＞

佐藤委員と和田委員の欠席と今期委員の任期が10月31日で満了となることを報告。

《議事》

議題(1) 水道事業の課題について

＜事務局説明＞

水道管の耐震化を進めており、基幹管路（250ミリ以上の管）の60%は耐震化している。水道ビジョンに基づく配水管整備計画に従い、老朽化した管を更新する際に耐震管を布設している。現在は主に基幹管路の更新を行っており、多くの費用がかかることから、毎年約5kmの布設替えを行っている。基幹管路の更新に一定整理ができれば、その他の水道管の耐震化距離も伸ばしていきたいが、すべての水道管を耐震化するにはかなりの費用と労力がかかることになる。

由良川の塩水遡上問題の対策として、防潮堰設置、地下水利用、海水淡水化、取水口の上流移転などを考慮しているが、各対策には費用、時間等の課題がある。効率的、効果的な対策を考えながら進めたい。

質疑応答

<委員>

水道管の耐震化対策は地盤の液状化まで含めたものか。

<事務局回答>

地盤の液状化までは含めていないが、地盤が沈下しても耐震管は継ぎ手、管に強度があるので多少曲がっても大丈夫だと思われる。

<委員>

由良川塩水遡上対策の防潮堰設置、地下水利用、海水淡水化、塩水回避について具体的にどのくらい費用がかかるのか。

<事務局回答>

防潮堰は100億程度。地下水利用は由良川沿線の井戸から取水することになり、1日2000t取水できる井戸が20個必要となり、これも100億ほどかかる。海水淡水化は他市の施設からみて350～405億、さらに維持管理費や電気代がかなりかかると思われる。塩水回避については取水場の上流移転、管の布設替えをすることで数十億はかかるが100億まではかからないと思われる。

<委員>

近隣市でPFAS（ピーファス）が出たが、舞鶴市の状況はどうか。

<事務局回答>

舞鶴市は14か所で取水をしているがPFAS（ピーファス）の基準値を超えるところはない。計測値はかなり低く、測れないくらいの数値です。

議題(2) 下水道事業の課題について

<事務局説明>

舞鶴市の下水道事業の整備状況について、令和5年度末で汚水処理人口普及率は98%、そのうち水洗化率は94.3%である。現在耐用年数50年を超えた下水道管は延長510kmのうち約7.7kmあり、20年後には約147kmになる。下水道事業の課題について下水道施設は建設してから60年以上経過した施設があり、維持管理費や更新事業費が増加している。下水道施設を財源等の制約のもとで、適切に管理していくには、中長期的な視点で、下水道事業全体の今後の老朽化の進展状況を捉えて、優先順位をつけながら施設の改築を進めることで、事業費の更なる削減を図ることが重要である。そのために、下水道施設全体の中長期的な収支状況を予測しながら維持管理改築を一体的に捉えて、計画的に管理していくことが必要と考えている。

雨水対策事業については、ハード対策として東西市街地の整備計画、ソフト対策として宅地の嵩上げに対する工事費用の一部助成制度を設けている。現在雨水管理総合計画を策定中であ

り、気候変動に伴う降雨量増加への対応、優先度の高い箇所からの効果的な整備の実施、多発する浸水被害への対応としてハード、ソフト対策の実施を検討している。

質疑応答

<委員>

テレビで災害時にマンホールから水が噴き出す映像を見たが、阻止する方法はあるか。

<事務局回答>

都会では雨水も下水道に流す合流式のところがあり、マンホールから水が噴き出す状況が起きることもあるが、舞鶴市は雨水を下水道に流さず、側溝に流す分流式なので今のところそのようなことはない。

<委員>

マンホールの水が噴き出して蓋が飛び出すのを防ぐ方法はあるか。

<事務局回答>

マンホールの蓋は飛散防止のために下からロックされて飛んでいかないようになっている。舞鶴市は分流式なのでマンホールの蓋が飛ぶようなことは今までにはない。

<委員>

雨水事業のソフト対策について具体的に教えていただきたい。

<事務局回答>

宅地の嵩上げ工事費用の一部助成制度と家に降った雨を溜める貯留施設への設置補助を行っている。また自分の家がどれだけの雨量でどれだけ浸水するのか認識できるような浸水シミュレーションを行っているところである。

<委員>

汚水対策について長期的というのは人口減少まで踏まえて想定しているものか聞きたい。

<事務局回答>

ストックマネジメント計画により重要度の高い施設から改築を進めているが、人口減少により規模を縮小していくところまでは踏まえていない。

<委員>

災害時には避難所のトイレが重要な問題となるが、防災部門との連携はどうか。

<事務局回答>

防災部門とは災害時の対応として地域防災計画に基づき連携している。また防災部門では災害時の備蓄物資として簡易トイレを基準数量保有している。なお、マンホールトイレについては、今後防災部門と協議していきたいと考えている。

<委員>

下水道の汚水処理施設の更新・投資費用や雨水対策は莫大な費用が必要だと思うが、国からの補助は見込まれるのか。

<事務局回答>

下水道管更新についてはストックマネジメント計画の中にあるものは一定国の補助がある。雨水事業も国の補助制度を使って整備を進めているが、今後維持管理、更新費用がかかることが想定されるので財政部局と調整をして進めていきたい。

<事務局説明>

料金改定については、経営戦略に基づき令和6年度に料金を改定する計画を立てていたが、現状では良好な経営を維持しており、令和6年度の改定は延期した。しかし水道事業については耐震化、塩水遡上対策に相当の金額が必要になる。下水道事業については収入が下水道使用料で11億円、一般会計から16億円投入されている。下水道事業は、汚水を処理して海に返すことや雨水対策など、大きな事業費が必要となる。しかし、事業費の確保は難しく、下水道使用料だけでは賄えずに一般会計からの支援を受けているが、舞鶴市の財政状況も厳しい状況にある。上下水道料金の収入は毎年減少しているので、ぜひ上下水道を多く使うようPRしていただきたい。

<会長>

今のメンバーでの審議会はこれで最後になるので、委員さんからご発言をお願いします。

<委員>

能登地震での甚大な被害の発生もあったが、水道下水道は日々使うものなので、費用がかかることは承知しているが、維持管理に努力をしていただければ嬉しい。

<委員>

上下水道事業は市民の皆様の理解を求められるところだが、社会基盤の整備への理解度は低いと思うので、重要性を伝えてくことがよいと思う。

<委員>

私が所属している会議のイベントでも今年は防災がテーマになっている。浸水によるハザードマップなど人の目に触れ、考える機会によって意識が変わる人が増えていけばいいなと思う。

<委員>

上下水道は人間が生きていく上での命綱なので、これだけのことをしていただいていることが知ることができ、とてもよかった。私も上記のイベントで水が出なくなった時のパッキングという鍋で炊かなくてもできる料理をするので食べに来てください。

<委員>

人口の増加が上下水道事業に重要。人口を増やす仕組みの勉強会が全市民、市役所を含めて必要ではないかと思う。何とか今の現状を踏まえて、より良い水道、下水を担っていただきたい。

<会長>

舞鶴市からは将来のために必要な事業の提案、説明を、各委員からは大変関心の高いご意見をいただいた。様々な経営努力のおかげで料金改定を今回審議会の期間でする必要がなかったが、これからは資材、建設費、人件費の高騰により料金改定をなくてはいけないだろうと思う。上下水道事業を一生懸命に取り組んでいることを、安心安全対策のためにも市民に様々な形で周知していくことが今後の理解を深めるための良い方策ではないかと思う。